

横浜マリインタワーの運営にあたって

小澤 真紀

はじめに

2013年3月16日(土)に、東急東横線・みなとみらい線が、東京メトロ副都心線を経由して、東武東上線及び西武有楽町線・池袋線へ相互に乗り入れる直通運転が始まりました。それ以来、埼玉県や都内から来訪されるお客様が増え、山下町周辺地域は一段と賑わいが増し、横浜を知っていただく大きな機会を得ることができました。横浜市民に愛され、かつては灯台として横浜港を見守り続けた横浜マリインタワーは、時代の変化に伴い、新たな使命を持った施設として生まれ変わり、さらに現在も進化し続けていきます。

横浜マリインタワーの歴史

1859年(安政6年)に、日米修好通商条約により武蔵国久良岐郡横浜村(横浜市中区の関内付近)に横浜港が開港。その後、商業港、工業港として大きく発展することになります。

それから時を経て、1958年(昭和33年)5月、翌年の横浜港開港100周年を控え、横浜市と民間有志の間で記念事業の一環として開港100周年に相応しいコミュニケーション創設の発議がなされ、これが横浜海洋文化センターの建設計画へと進展します。その具体化のひとつとして、海洋博物館やレストハウスなどを備え「みなと横浜」のシンボルとなるような展望塔を建設する計画が決定され、同

年10月には、運営会社として横浜展望塔株式会社が設立されました。

建設地は山下公園に隣接する現在地に決定し、1959年（昭和34年）12月18日に建設工事が着工されました。高さ106mの塔体は、全体を10角形の綱目状とし、鉄骨を立体的な格子に組み、台風による風圧や地震力を受けても十分に耐えるような設計がなされています。

1961年（昭和36年）1月14日、当時の横浜市長であった半井市長をはじめ、運輸大臣、神奈川県知事、県市議会議長、横浜商工会議所会頭その他多くの地元の方々が出席し、盛大に竣工式が行われました。また、1階吹き抜け部分では大きな2枚の壁画の除幕式が行われ、作者である山下清画伯も出席されました。

横浜マリントワーは、翌1月15日に開業日を迎えましたが、展望台はもとより、低層部には、1階に観光客休憩所、3階に海洋科学博物館が設置され、多くの市民や観光客の人気を集める施設となりました。新聞・ラジオなどマ

スコミにも大きく報道され、初年度の入場者数（展望台を利用されたお客様）は83万5000人に上りました。

灯台の回転灯器は、展望階のさらに上階に紅と緑の2色で設置され、その光の到達距離は約47kmと記録されています。また、地上からの高さ106mが世界最高の灯台としてギネスブックにも記載されました。

開業6年後の1967年（昭和42年）には、横浜展望塔株式会社は、山下公園の棧橋に係留されホテルやレストランとして転用された貨客船「氷川丸」を運営する氷川丸観光株式会社との間で、事業基盤の強化、横浜マリントワーと氷川丸の一体的・効率的な運営などを目的として合併を行い「氷川丸マリントワー株式会社」として新たに出発することとなりました。

年号が昭和から平成となった1989年（平成元年）、横浜では市政100周年・開港130周年を記念した横浜博覧会（YES'89, YOKOHAMA EXOTIC SHOWCASE）が3月25日から10月1日までの191日間で開催さ

れ、その開会にあわせて横浜マリインタワーは、塔体部の色を従来の赤白7等分の縞模様から、下から上に向けて徐々に色彩が変化するグラデーション方式へと変更しました。

一方、横浜博覧会終了後、横浜のウォーターフロント「みなとみらい21地区」の都市再開発が、まずは基盤整備の区画整理からはじまり、その後建築物の建築も進んでまいります。1993年(平成5年)に完成した横浜ランドマークタワーでは、横浜マリインタワーの展望施設の高さをはるかにしのぐ地上273mのスカイガーデンがオープンしました。みなとみらい21地区の開発が進むにつれて、横浜の都心機能の中心が、セントラルタウン、オールドタウンである山下公園周辺地区から、みなとみらい21地区へと少しずつシフトしていくこととなり、横浜マリインタワーの入場者数は、施設の老朽化・陳腐化と相まって、減少の一端をたどりました。そして、2006年(平成18年)1月25日には、灯台の機能を残し、46年間の営業を一旦休止することとなりました。なお、この時残された灯台

機能については、航行無線技術の発達に伴い役目を終えたとして、2008年に終了となりました。

しかし、横浜マリインタワーの存続を求める多くの市民からの要望により、横浜市は、再整備することとし、横浜港開港150周年にあたる2009年にリニューアルオープンさせることを決定しました。また、民間のノウハウを活用して再生事業を推進するために、運営事業者を公募により選定することとなり、2007年3月、現在の運営事業者が選定されました。

そして、横浜マリインタワーは改修工事を終え美しく生まれ変わり、2009年(平成21年)5月23日にリニューアルオープンしました。

観光振興と横浜マリインタワー

横浜は、国内でも有数の観光地として知られていますが、観光のトレンドも時代とともに変化し、施設側もその流れに伴って変化することが必要となります。横浜ランドマー

クタワーの高さは296m、さらに2012年に開業した東京スカイツリーは634mにもおよびます。人間の建物の高さに対する追求は、遂に横浜マリンタワーの6倍もの世界に突入しており、横浜マリンタワーはもはや高さを売りにするだけで人を呼べる施設ではなくなっています。リニューアルに伴い、レストランやバー、カフェ、多目的ホール等も備え、昼も夜も大人から子供まで楽しめる施設へと生まれ変わりました。

現在、横浜マリンタワーは、展望フロアからの日常の眺望は勿論、お正月は初日の出、夏には大迫力の花火等、季節ごとの楽しさを味わっていただけるとともに、来訪者に横浜の観光情報を提供する窓口も設置して、観光情報の発信拠点として横浜の観光振興の一端を担う存在となることを目指しています。そのための営業・PR活動も多様化していて、横浜マリンタワー単独の活動のみならず、近隣施設と合同で、国内の旅行会社などへセールスを行ったり、イベントを共同で企画し実施するなど横のつながりを

重視した。オール横浜の精神で、まずは横浜全体で来訪者を増やそうという活動を展開しています。このような相互の協力活動を通して横浜全体の観光が活性化されることにより、横浜のルーツとも言える山下町周辺地域にも自ずと多くの人々が訪れるようになり、中華街、元町及び山下町エリアは、一段と賑わいが増して来ました。

地域貢献

横浜マリンタワーを運営するにあたり、一番大切なことが周辺地域との連携です。歴史や伝統のあるこの街に新しく入って来た私たちを地域の方々はとても温かく迎え入れてくださいました。そして、たくさんのお力をお借りし、ご指導をいただきながら今日に至っています。その連携の礎となる取り組みがありますので、紹介させていただきます。

2009年（平成21年）4月、横浜港開港150周年記念として「開国博Y150」が横浜市主催で開催されま

した。これを機に翌2010年からは、民間主体で、新たな横浜を目指し更に発展させるため、馬車道、関内、中華街元町・山手、山下公園通りが一丸となり、多くの人に「私たちの街 横浜」の良さを伝え楽しんでいただく目的で「横浜セントラルタウンフェスティバルY151」を皮切りに「Y151からY200まで」の50年間、イベントを開

催していくこととなりました。このイベントの実行委員会には、横浜でも歴史の長い企業の皆様やメディア関係のほか、横浜で活躍される企業・団体の皆様にもご参加いただき、行政にもご協力いただいています。毎年5月末から6月初旬にかけての3日間、山下公園をメイン会場として、お子様からお年寄りまでお楽しみいただける様々なイベントが催されます。横浜市内だけではなく市外・県外からのお客様にも「横浜って楽しいね」と言っていただけるよう、一丸となって企画・運営にあたっています。

周辺地域には多くの団体があり、これらの団体が関わる港湾、鉄道、防災、防犯、地域振興等に関する定例会やイ

ベント企画にも積極的に参加しています。更には、学生の応援や受入れも積極的に行っており、地元の小学生が横浜の歴史を学習するため展望フロアから横浜港を学ぶプログラムの実施や、職業体験の受入れ、学祭への協賛、作品のお披露目の場としての会場の提供など、未来の横浜を担う世代への協力を惜しみません。

また、多くの著名人（俳優、芸人、タレント、アーティスト、プロスポーツ選手等）が、ロケや撮影、横浜マリンタワーの紹介番組の収録等で来館されますが、既に有名な方は勿論、これから活躍が期待される方々にも是非頑張っていたきたいという想いで、協力させていただいています。

以上のような取り組みを通じて、横浜マリンタワーは周辺地域との連携を深め、微力ながらも地域活性化への貢献ができるようになってきました。

これからの横浜マリントワー

「リニューアルオープンしてからの横浜マリントワーは、多種多様な形で皆様にご利用いただいています。どなたでも心から楽しんでいただける施設であること、周辺地域と更なる連携をとりながら地域活性化の原動力になること、人々の思い出や印象に残るサービスを提供すること、外国人のお客様にも横浜にいらっしゃった際には必ずお立ち寄りいただくこと、そのような施設になることを私たちは目指しています。そのためには、自ら現状の見直しや新しいことへの取り組みを進めるのは勿論のこと、お客様の声を大切にして耳を傾け、反省点や改善点を見出し、気付かなかったことに気付かせていただくことで、尚一層素晴らしき施設していきたいと考えています。そして、横浜全体の情報を発信していく役割もしっかりと果たしていきたいです。

横浜マリントワーの業務に従事するようになり、多くの皆様にご指導やお力添えをいただき、感謝の気持ちでいっ

ばいです。私たちは歴史ある横浜マリントワーに携われることに感謝と誇りを感じ、お客様や周辺地域の皆様に恩返しするためにも、いつまでも「夢のある心温まるタワー」であり続けたいです。